



## 故本會評議員 松田貞治郎君小傳

氏は山形縣山形市の出身にして明治三十五年七月東京帝國大學土木工學科卒業後直ちに九州鐵道株式會社に入社し爾來帝國鐵道廳、鐵道院技師、大阪市電氣鐵道工務課長、南滿鐵道株式會社技師に歴任し企畫設計保線等の工務に盡瘁せられたるが大正七年八月迎えられて三菱製鐵會社に入社し同社本店調査部技術課長を経て大正八年十一月兼二浦製鐵所長に就任せられたるは氏の製鐵事業に干與せらるゝに至りし第一歩にして爾來大正十四年三菱製鐵會社常務取締役となり大正十五年七月東京鋼材株式會社の三菱經營に移るやその常務取締役を兼ね昭和九年一月兼二浦製鐵所の日本製鐵株式會社に合併せらるゝに及び東京鋼材に専任し日本製鐵會社取締役を兼ね昭和十年東京鋼材（現在の三菱鋼材取締役會長に就任す其間大正二年一月—大正三年一月、鐵道事業の視察、大正十三年五月—大正十四年三月製鐵事業視察の爲め歐米各國に出張し尙ほ大正八年十一月—大正十二年八月迄西鮮鐵道取締役、昭和六年八月—昭和十年十月迄朝鮮鐵道監査役、昭和十二年五月—昭和十五年十二月迄三菱鑛業取締役等に就任せらる、

氏は資性剛毅不撓不屈の氣魄を以て事に當り特に大正十四年以降三菱製鐵、東京鋼材常務の要職に當るや當時業界非常の不況沈衰に直面しよく經營の合理化と設備の充實に勤め奮闘努力業績の向上に盡瘁し何れも隆昌を見るに至りたるは其功績著大なりと謂ふべし。

尙ほ本會としては大正十四年四月以來評議員として本會事業に翼賛せられたるは感謝に堪えざる處なり。

偶々舊臘三十日急性肺炎に冒され超え本月五日早曉終に闕焉として逝去せらる時恰も高度國防國家建設の要望切にして鐵鋼事業の使命重且大なるに當り氏の如き偉才を失ひたるは邦家の爲め眞に痛惜に堪えざるなり。

社團法人 日本鐵鋼協會